

減災力の強いまちづくり

シリーズ31

災害による関連死を防ぐ

～携帯トイレを用意しよう～

災害による関連死を防ぎましょう

災害時、地震の被害から逃れても、避難所生活で命が失われてしまうことがあります。多くの人が集まる避難所は、プライバシーが守られにくくなります。肉体的、精神的に負担を強いられる避難所生活により、エコノミークラス症候群、高血圧、腎臓病、糖尿病などが一気に進むなどして、助かった命が避難後に失われてしまうケースがあります。

熊本地震では、このような災害関連死は、地震による災害死に対し、5倍以上にもなったという報告もあります。災害から命を守ると同時に、避難所で命を守る対策が必要です。

災害時には圧倒的にトイレが不足します

災害時に、避難所で最も困るのがトイレです。災害時には、トイレを清潔に保つことが難しくなるため、トイレに行くことを避け、水を飲まない、ご飯を食べないなどの行動に移ってしまうこともあります。トイレに並ぶことなく使用するためには、避難者50人につき1台のトイレが必要だと言われていますが、まだまだ不足しているのが現実です。そんな

中、市ではトイレトレーラーを導入するなどトイレの整備に取り組んでいます。

各家庭でも携帯トイレを備えましょう

大規模地震が発生すると建物への被害がなくても、水洗トイレが使えなくなる可能性があり、使えるようになるまで1カ月以上かかる場合があります。そんな時に有効なのが、アウトドアなどで使われる市販の携帯トイレです。1日に行くトイレの回数や、家族の人数に応じて必要数を確保し、最低7日分を備蓄しましょう。

備蓄の目安

1人1日5回×家族の人数分×7日以上
4人家族の場合、約140個必要

携帯トイレの使い方



便座にビニール袋をセットし、凝固剤を入れます



ビニール袋を取り出し縛ります



可燃ゴミとして捨てます

北杜市消防団出初式

新春恒例の北杜市消防団出初式を行います。
当日は消防に関する功績を称える表彰の授与を行います。

日時 令和3年1月10日(日)
時間 8:30から
場所 長坂総合スポーツ公園野球場
(雨天時は同公園体育館)



北杜ほっとメール